木曽ヒノキ備林での事業経過について

付知営林署出の小路担当区　　大　森　盛　次
西　崎　生　二

1. 目　　的

付知営林署出の小路担当区部内の木曽ヒノキ備林は、歴史を遡ること318年前（寛文4年）徳川幕府尾張藩の徹底した林政改革により留山、巣山等制度を設け「桧一本首一つ」、と今に言い伝えられるように厳然と村人の立入を禁止して以来、県有、官有、御料林、神宮備林と幾多の変遷を経て現在の木曽ヒノキ備林に至るまで完璧な保護施策により、今尚木曽ヒノキを主体とした美林が81林班から96林班に亘り、面積708 *ha*総蓄積313千㎥木曽ヒノキ占有率81%その材積254千㎥が現在に受継がれている。ちなみにこれを現在価格に置きかえてみると木曽ヒノキだけで1千億円以上になる。

この稀少価値のある貴重な財産はさらに、そのまま次の代へと継承しなければならない。従って神社仏閣等日本古来の美術的建築用材の需要に応えることを目的とし、特別な需要があった場合のみ原則として択伐により伐採することとなっている。

付知営林署では伊勢神宮の遷宮用材の注文に応じ、この原則を踏まえながら昭和30年代は直営生産で実行し、その後立木販売を経て、昭和54年度からは毎年素材で950㎥程度を製品生産請負で実行しているが、収穫調査、請負事業体への指導監督、注文材の伐採等の難しさを体験したので、その実態と問題点及びその対応を発表する。

2. 問　題　点

前段で述べたように伊勢神宮の第61回遷宮が昭和68年度に執り行われるため、その御造営材の注文が木曽ヒノキで約2,700㎥あり（図－1参照）、昭和62年度完納をメドに昭和54年度から採材を行っている。注文材は例えば正殿の棟持柱用材として、長さ11.0 *m*末口径76 *cm*品質上小節4本というように長級・径級、品質が指定されている。（昭和58年度に上記の棟持柱1本を採材することができ、材積6.95㎥で契約価格920万円㎥当り単価130万円であった。）

貯木場に運材された素材あるいは一伐区を皆伐した立木の中から選木するのであれば効率も良いのであるが、地形が急峻でしかも笹丈2 *m*以上もあるチシマ笹の密生地の中で生立木を対象に注文に応じられる適材の選木には言語に絶する苦労がある。仮に適材を発見しても注文径級に合致するがロスがないか、又伐倒方法、搬出方法等を検討して製品の損傷をなくさなければならない。更に

20%以内の択伐の原則及び伐採跡地の更新等を考慮しながら、伐採事業を請負で実行しているのが実態である。

以上述べたように木曽ヒノキ備林では、計画的継続的な伐採は行われないが、特別な需要のための伐採が今後も持続されるものと考えられるので、効率的な事業を実行するため次のような対応を試みた。

3. 問題点への対応

(1) 高品質材の調査について

当担当区には昭和5年から14年までの10年間を費やして完成した「出の小路神宮備林大樹台帳」の完結分昭和14年版が保管されている（図－2参照）。これは胸高直径2尺（66cm）以上の木曽ヒノキの大径木を調査したもので、調査項目は樹木番号を始め胸高直径、樹高、材積、伐採したときの素材の品質価格等詳細をきわめ、その調査本数は13,302本にわたる大規模なもので正に木の戸籍簿である。残念なことには時の経過で伐採されたり立木が成長した等で林況が変っており、樹木番号、谷、沢、崖、路網等詳細に記入された位置図を手に、山を歩いてもその調査木にはごく稀にしか行き当たることはない。又、過去にこの台帳を活用したという記録も何処にも見当らない。しかし10年間にわたり地形は急峻でしかもチシマ笹の密生地という悪条件の中でも1本1本調査された諸先輩方の苦労に報いるため、また高品質材の所在を明らかにするためにも、現在この大樹台帳の見直しを実行しているところである。

具体的には収穫調査で山に入る時は、その林小班で台帳に記録してある大樹の中でも顕著なもの、例えば樹木番号4,866番胸高直径2尺7寸8分、造材末径2尺2寸、長さ11尺、品格四方明と記録があれば神宮注文材の皇正殿の御扉材、長さ3m末径74cm品質四方明の採材に充分対応できるので、これを位置図に移記して調査に当たる。対象木に行き当たらなくてもそこにはだいたい似たような品質の立木が生育しているもので随分と役に立つ。又調査は択伐であるから残存木で径級、品質の顕著なものを、これも位置図にメモをしておき一定の時期が来たら、これ等のメモを基に調査をし現代の大樹台帳を作成する。この台帳がやがて将来の高品質な特殊用材の需要に効率よく対応出来るものと確信するものである。

(2) 施業手段の改善

木材市況不振のなかで又限られた資源から余分な資材を採取することは許されないことである。しかし現在の架線集材方式では支障木の伐倒を余儀なくされ要求される資材の採材が半減してしまう。択伐施業では周囲の残存木を傷めずより効果的に集材するには、ヘリコプターによる集運材が最も良いのではないか、と常々考えていたが来年度は試験的にでも一部ヘリコプター集材が出来ないか現在検討中である。実現すれば可搬重量、経費、等の問題はあると考えられるが、収

穫調査の段階から注文材に適する高品質材を捜し求め収入の増大を図るとともに、運搬距離の短縮等経費の節減に努め、より効果を増大するよう研究を重ねながら実行し、その成果を来年度報告することとしたい。

又木曽ヒノキ備林の更新は、ヒノキの天下Ⅰ類で伐採後5年経過しても稚樹が発生しない場合はヒノキの大苗の補助植込みを行うこととなっており、現況林分のうち比較的低海抜で笹の少ない林床では、根株や倒木の周囲に稚樹の発生をみることができる。又昭和30年代の択伐跡地にはヒノキ・サワラの幼令林が生育し、更新可能な林分もある。

しかしこれからの施業地は奥地で標高が高く、しかも笹の密生地でもあるので、その対策として除草剤の散布等を考えており、伐前空中散布は稚樹の発生を促すだけでなく、収穫調査、伐木造材等の功程アップに大きな効果が期待出来るので、試験的散布を実施してその追跡調査に取組んでいきたい。

(3) 請負事業体の育成

出の小路製品生産事業は昭和54年度より5年間請負事業で実行し今後も継続する予定であるが、その指導監督、注文材の採材には当担当区が当たっている。請負事業といっても伐木造材、集運材共直営生産事業と何ら遜色のない技術を有しており、なかでも安全意識は高く、T・B・Mの励行及び基本動作に徹し昭和54年から今日まで5年間無災害を継続していることは高く評価出来る。こうした林業技術を広く浸透させるため営林署、町村、請負者との研修会の開催等を推進し地域林業の発展に寄与したい。

4. ま　と　め

以上一年間の体験から得た問題点とその対応を報告したが、国有林野事業の財政事情を考える時、与えられた資材からいかに高品質な注文材を多く採取するかが大きなウエートを占めると思う。例えば、昭和58年度に240 ㎥の注文材を採材しその収入は1億4千4百万円であった。これを付知営林署全体の年間予定出材量13,300 ㎥、収入12億円と対比すると、出材量比2％に対し収入比率は何と12％を占め（図－3参照）、注文材の採材の多い少ないがいかに収入確保に影響を及ぼすかが解ると思う。

このことからも問題点の改善を着実に推進し収入の増大に努力することと、基本的には、きわめて長い年月にわたる保護育成によって生育した林分であるから、各学術参考上の価値も高く、文化的にも貴重な財産であることを認識しながら今後事業を進めて参りたい。

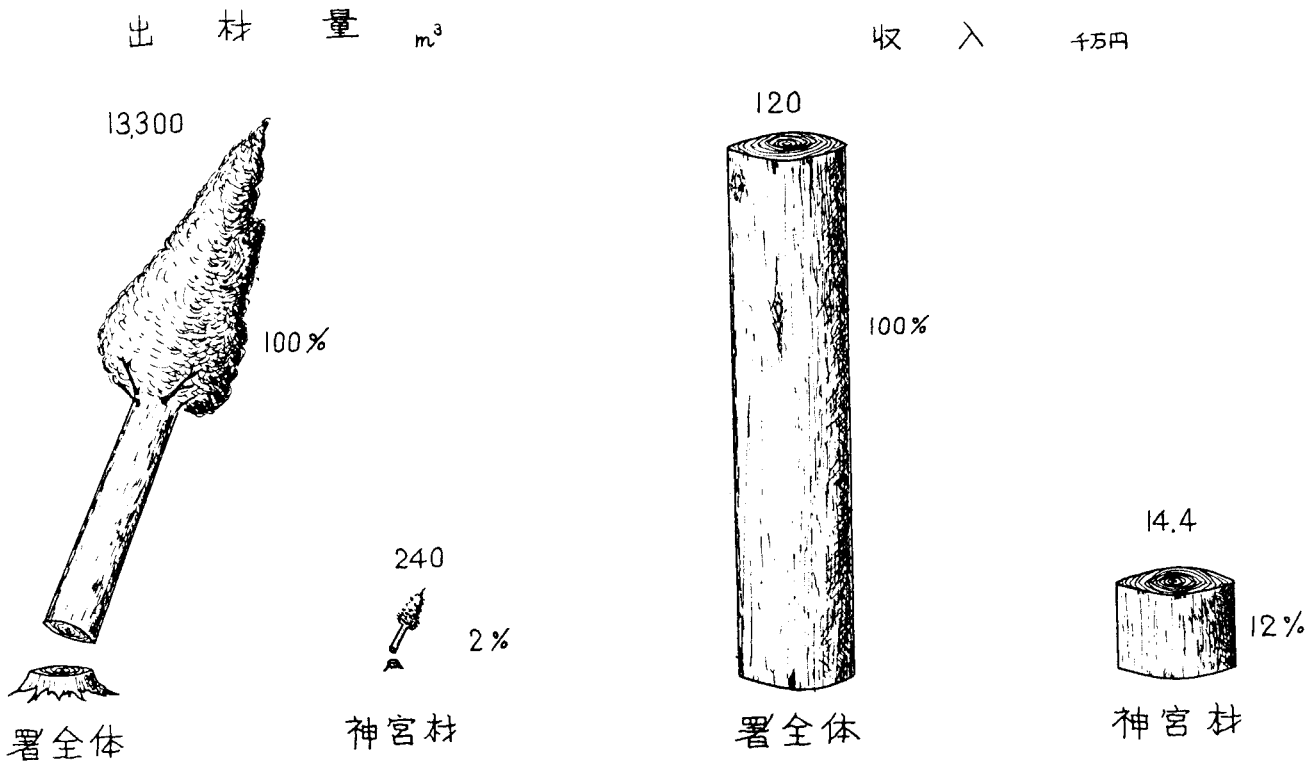
図－1　昭和59年度以降調達予定（付知営林署の分）

内　訳

番号	名称	品目	寸法 長	寸法 巾厚径	員数	単積 計積	単価	金額	摘要
			m	m			円	円	
1	皇豐正殿 相殿御床板	四方明	300	72	1			1555	重要材
1	同上	〃	300	56	2		941	1882	〃
			300	44	2		581	1162	〃
2	豐正殿								
3	御船代蓋身	〃	280	96	2		2580	5160	御祝木
6	皇正殿御船代蓋	〃	280	84	1			1976	〃
9	豐相殿								
10	御船代蓋	〃	240	70	2		1176	2352	〃
							神宮司廳		

番号	名称	品目	寸法 長	寸法 巾厚径	員数	単積 計積	単価	金額	摘要
			m	m			円	円	
30	南宮別宮								御祝木、仮御船代木木輪程切て直線はもの（後年代採）
32	仮御船代	四方明	600	54	3		1815	5445	
82	皇豐正殿 御扉板	〃	300	72	2		1555	3110	重要材
83	豐正殿 覆	並	720	56	1			2381	
84	豐御饌殿 御扉板	四方明	400	64	3		1638	4914	

図－2　出ノ小路第一備林大樹調査野帳

番号	位置		立木					造材				製材用材長	備考
	営林署	摘要	胸高直径			樹高	材積	末径	長	品格	節		
	林班		最大	最小	平均								
1			233	217		16		26 18 15	22 12 144	3 2 1	3 2221 3 144 3		
2			235	211		15		19 18 18	22 12 152	3 1 1	1 2121 1 112 3		
3			217	188		12		18 16	12 154	3 2	3 1215 3 112 3		
4	1		235	237		14		22 21 19	12 12 12 202	3 2 1	2212 1 112 3		
5	3		213	212		14		18 17 17	12 12 144	3 2 1	3 1212 3 1 1217 3		
6	3		228	237		14		22 21	14 154	3 2	3 1221 3 3 1217 1		
7	3		253	212		15		20 19 19	16 12 154	3 2 1	3 212 3 1 112 3		
8	3		215	214		12		17 19 15	12 12 254	3 2 1	3 2525 3 1212 3		
9			212	195		13		18 12 12	12 12 224	3 2 1	3 2822 3 1215 3		
100			217	212		12		18 16 15	12 12 242	3 2 1	3 2121 3 1 2523 3		
1	3		229	226		15		22 24	12 142	3 1	3 1222 3 1 112 1		
2			244	239		15		18 18	22 24	1 1	3 222 3 1 12 1	3	
3			227	221		12		22 24 19	12 12 142	3 1	1 1212 1 3 11 3		
4			216	215		13		18 19 11	12 12 242	3 2	3 2122 3 3 1212 3		
5			254	240		14		25 23 21	14 14 252	3 1	3 1212 3 1 11 3		
6			224	229		14		19 14 14	22 12 142	3 1	3 1212 3 3 12 3	3	
7			217	197		13		19 19 14	12 12 124	3 1	3 1214 3 1 122 3		
8			220	212		13		22 19 19	22 12 224	3 1	1 1222 1 1 121 1		
9											1		

図－3　昭和58年度神宮材実績